



学芸会

自分の力を出し切り、心を一つに

先週は、日本語学習の発表の場として開催された学芸会。今年も子どもたちのはつらつとした頑張る姿を見ることができました。子どもが主役のこの学芸会、冬休みの家庭での練習に始まり、この日まで授業の合間や放課後の少ない時間に練習を重ね、ご家庭でのご協力を得ながら、この日の発表となりました。

午前中のリハーサルを終え、気分も高まったのか昼食や遊び時間もそこに会場に集まった子どもたちの表情に、緊張の中にも意気込みを感じました。私は、開会のあいさつで「学級で協力し合い、（中3生最後の学芸会）堂々と胸をはって発表する」ことを話しました。この後、「11ぴきのねこ」のお面や衣装を着けて登場した幼稚部のかわいい発表から始まり、最後を締めくくる静かで力づよい感動を与えてくれた中3生の詩の朗読まで、10の演題すべてが、練習の成果を発揮し、1年間の成長を来賓の方、保護者の皆様に強く印象づけ、大きな感動を与えてくれました。また、観る側の子どもたちにとっては、頑張る友達の姿を見つけるとともに絵本や物語や落語の紹介や詩人の詩や自作の詩、エールの朗読等、日本語学習の多様な教材が披露されたことで、日本語に対する興味・関心が広がったことと思います。



(小1「くじらぐも」の場面より)

今年の発表においても、子どもたちの頭の柔らかさに脱帽です。長文の絵本やお話、物語や詩等を全文しっかり覚え、元気よくはっきりと表情豊かに発表している姿に驚き、感動しました。そして、今年の学芸会の特色は、昨年への衝撃的な東日本大震災で子どもたちが受けた素直な思いや復興への願いを詩の朗読や自分たちのメッセージとして発表したことでした。子どもたちの復興を願う強い思いと被災地を思いやる温かい心が、強い響きとして、伝わってきました。緊張しながらも、リハーサル以上に本番に力を発揮した子どもたちから今年も元気をもった気がします。この成果は、各ご家庭でのご指導、ご協力の賜物です。また、先生方には、企画から放課後の指導に至るまで、大変ご苦勞をおかけしました。誠にありがとうございました。

最後に、学芸会の準備から当日の進行まで奔走していただきました運営委員会や学芸会委員の皆様、そして、各学年の衣装



小6「応援メッセージ」発表

や飾り等ご準備をいただきましたクラスペアレントや保護者の皆様、大変お世話になりました。